

第10回推進会議結果のまとめ

第10回推進会議では、「買い物環境の向上、移動の利便性の向上、交流の場、新しいコミュニティの形成」の方法等についてグループ討議が行われました。

1. グループ討議結果のまとめ

グループ討議での意見・アイデアをもとに、事務局が、根本的な課題、望ましい姿とその実現の課題、提案の方向をまとめました。

●買い物環境の向上

<グループ討議の意見・アイデア>

課題) 買い物をしたいが移動手段が無い、歩くには遠いので、各団地での販売や移動支援などきめ細かい対応がほしい

課題) 小さい団地(入谷地区も含む)でも買い物ができる仕組みがほしい

事例) 平成の森や南方地区の移動販売(2回/週、バラエティに富む品揃えが鍵)

スーパーにどの団地でも移動販売をするように要望を出す

団地集会所で買物できるようにして、ひきこもりを無くす

町民自らが移動販売出来る仕組みをつくる

移動カフェをつくる

移動軽トラ市を場所や曜日を変えて実施する

地域包括ケアと買物をセットした仕組みをつくる

<根本的な課題>

- 高齢者などの買い物をする際の移動手段がない
- 生活者のための買い物環境整備をしてほしい

<望ましい姿、実現への課題、提案の方向>

望ましい姿

- 高齢者が外出して買物できる環境で孤立化を防ぐ
- 町民が楽しめる買物空間整備、生活に必要な品の充実

実現の課題

現状の仮設住宅での移動販売⇒高台移転後も継続が必要

<必要な仕組み>

- ◇小さい団地・集落をまわることができる仕組み
 - ◇町民や町内事業者による事業化、スーパーや社会福祉協議会等による新たなサービスの展開
- アイデア例) 移動軽トラ市、移動カフェ

提案の方向

住民 移動手段のない方の買い物支援ができる近所づきあい(共助)を行う
町 地域包括ケアでできる支援を含めた仕組みづくりの検討

●移動環境の向上

<グループ討議での意見・アイデア>

課題) 町民バス、スクールバス、医療送迎バスの今後の運行はどうか？

課題) 団地と施設の間が離れていて、高低差もある

小型バスで行ける団地を増やす

特区申請(規制緩和)をして宅急便も収入源としたバスは運行できないか

居住地区とまちなかや主要施設を結ぶ移動サービスがほしい

町民相互で助け合って移動手段を確保する

<根本的な課題>

- 現在の町民バスで町民のすべての移動需要はカバーできない(維持費用の限界)
- 高台団地や統合される学校などでは、新たに移動手段を確保しなければいけない

<望ましい姿、実現への課題、提案の方向>

望ましい姿

- 利用しやすい移動交通手段で町民の外出が活発になる
- 町民が移動に困らないまちにする

実現の課題

現状のスクールバス、災害臨時バス終了(H27)⇒今後の機能補償

<必要な仕組み>

- ◇小さい団地・集落と病院や商店等をつなぐ仕組み
- ◇一般町民がドライバーなどをできる仕組み
- ◇人だけでなく荷物も運べる仕組み
- ◇町民バスでの通学輸送、過疎地有償運送の仕組み

提案の方向

- 住民** 住民相互で移動を支える仕組みづくり
- 町** 町民バスをはじめとする公共交通のあり方の検討

●交流の場、新しいコミュニティの形成

<グループ討議での意見・アイデア>

課題) 志津川、伊里前などの大きな高台団地のコミュニティ形成

課題) 自立再建と既存集落・高台団地相互のコミュニティ形成

事例) 公民館や図書館、ふれあい交流館(観光協会2階)で多世代が交流をしていた

松原公園の中でグラウンドゴルフを行う

高台や低地部で町民ふれあい農園を確保する

農協でやっていた朝市を町内で順番にやっていく

<根本的な課題>

- 高台団地の新住民のコミュニティ形成が課題
- 交流の場が限られている

<望ましい姿、実現への課題、提案の方向>

望ましい姿

- 高台団地で新たな地域コミュニティが生まれ、育まれている
- ふれあい農園やスポーツを通し町民の交流が活発である
- 商店街や公共施設等まちのいろいろな所に交流の場がある

実現の課題

新たな地域コミュニティの形成、支援のあり方

<必要な仕組み>

- ◇各団地の集会所の相互利用・有効活用（高台団地や災害公営住宅の集会所も既存集落で使える 等）の仕組み
- ◇町内の交流（地域スポーツ活動や町民ふれあい農園活動 等）をより一層活発にする仕組み
- ◇商店街の一角のお休み処、役場・公民館・図書館などの交流スペース
- ◇祈念公園や河川親水施設、町民ふれあい農園、運動施設などの交流スペース

提案の方向

- 住民** 住民相互で交流を活発にする仕組みづくり
- 町** いろいろな交流ができる場づくり

2. アドバイザーの方々からの講評

■三浦先生

皆さんの話を聞いていると、なかなか難しいことかもしれないが、今すぐにやれることと、将来を見据えて今のうちにやっておくべきことを整理して、取り組んでいくことが大事だと感じた。宮原先生から話が出た「一石二鳥、一石三鳥」ということは民間企業においても昔から言われていることで、これは会社の大きさにもよるが、分業ではなくて一人で何でも出来ることが求められてきた。一つのやり方で良かったものが、もっといろいろなやり方をする中で、さらに活動が広がることが求められる。一つの例で交通のことで説明すると、大きなバスではなく、小さなワゴン車であっても動き方によっては様々な役割が担えるのではないかということである。

事業を行うのには様々なルールがあるのだろうが、一つの事業を行いながら宅配事業を行うこともやり方だと思う。また、民間バスがタクシー会社とコラボレーションしたとしても、最終的にはお金が無くて赤字になるようでは事業が出来ないのであるから、そのようにならないよう補助金等をどのように得てくるのが課題となる。そのためには、どのように進めれば良いのか様々な方々と意見交換しながら、着地(結論)から入口部分を考える、そのような進め方をするのも一つであろう。

事業を進めていくためには、町の税金を使わざるを得ない部分もあるが、出来るだけ必要な経費を絞っても足りない場合には、例えば商工組合から費用を工面してもらうやり方もあるだろう。皆がバスを利用することにより、それに関係する方々にお金が回るやり方もあるはずで、いろいろなやり方が考えられる。また、運転二種免許を持っていても何もしていない元気な高齢者の方もいるので、そのような方に一定の賃金で働いてもらうようなやり方もあると思う。

■平野先生

最初にも話したが、高台移転により新しいコミュニティが出来ることが、今の準備期間の間に今しか出来ないことが結構ある。それにより、どのようにして強固なコミュニティを形成するかが大きなポイントである。行政としては、そのコミュニティ形成のことをしっかり住民と話し合うことが重要である。

二点目としては、縦割りの組織で動いていくと、持続可能な行政サービスは、民間サービスも含めて出来ない。そのため、どのようにサービスを複合化して、復興予算が引き上げられた後でも持続可能な行政サービス、民間サービスがなされるよう仕掛けていくのか、その点も今しかできないことである。つまり、復興予算が終わった後でもサービスが継続するような作戦も、今から準備していかなければならない。ヒントとしては、サービスや事業を複合化すれば無駄を省くことが出来るので、皆さんの支払いや税金からの支出を最小限にしながら、サービスを継続させることを考える必要がある。ただし、そのためには行政が相当頑張らなくてはならない。その二点を強調しておきたい。

■宮原先生

今日の話し合いを聞いていて、皆さんがざっくばらんにいろいろなことを話し合えるようになってきたと感じたし、実際にグラウンドゴルフにしても椿物語にしても現実に動いているプロジェクトになっているので、ここの会議の価値としては、町の方々がこの場所で話し合ったことが重要なこととして築かれてきていること。町としてもこの会議を立ち上げた当初の目標や目的があるはずなので、ここから出された提案を重く受け止めながら実現に向けて取り組んでもらいたい。その点をあらためて認識した。

今日も市場のことや小さな善意の提供のことなど、町の方が出来ることが話し合いの中で出された。しかしこれらのことが、実際にここの会議参加者だけで行われるのではなく、他の町民の方々とアイデアを共有しながら、どのようにして実現していくかが町民委員の皆さん側の一つのチャレンジになっていくと思う。このような取り組みが続けられることが、南三陸町の一つの意志決定やアイデア実現の中心部となるのだと思う。従って、町民委員の皆さんは、どのようにして他の町民の方につないでいくかをぜひ視野に入れて考えてもらいたい。